昭和61年(1986年) 10月31日(金曜日)　世界日報　The Sekai Nippo

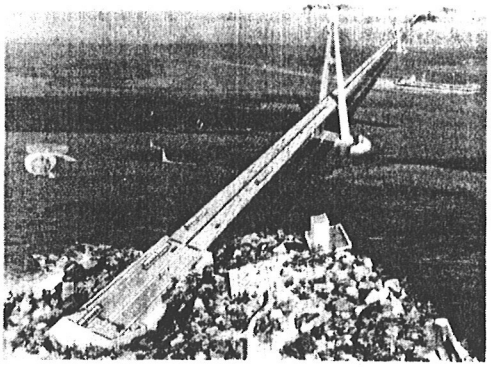
世界に貢献できる道

日韓トンネル実現の意味

解説

先日発表された国民生活白書によると、わが国は世界有数の豊かな国だという。しかし資源、食糧、観光資源小国の日本には生活の豊かさの実感は全くない。島国日本を大陸の一部とし、世界との自由往来を可能にする国際ハイウェイ建設事業団が計画中の「日韓トンネル」が実現したら、わが国の地理的環境は劇的に変わる。そこで日韓トンネル実現の政治、経済、文化的意味について亜細亜大学教授・藤田至孝氏にインタビューした。

(聞き手＝解説室・佐川誠一郎)



日韓トンネル架橋部分模像図

大陸と直結し真の国際化へ

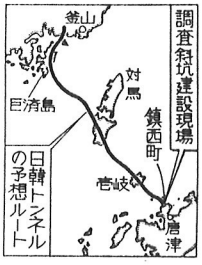
――先日、佐賀県鎮西町で九州と韓国を海底トンネルで結ぶ国際ハイウェイ建設事業団主催の「日韓トンネル」計画の調査斜坑の起工式が行われたが。

「私は技術、地政学的には専門外だが、日韓トンネル実現運動がすでに三年以上も展開されているということ、現実に調査が進められていることを今まで知らなかったことをたいへん残念に思った。また、これほどの大事業がマスコミ等を通してもっと広範に一般国民に知らされないのかと不思議に思う」

――藤田教授は日韓トンネルが必要であるという構想をお持ちと聞いたが、そう考えるようになったきっかけは何か。

「ヨーロッパで生活した体験が直接の契機だった。日本をユーラシア大陸と結びつけることが必要だと思ったのは、つまり日本を大陸の一部にすることが、この国を真の意味で国際化させ、世界に貢献させる道だと考えた。

ヨーロッパでは、諸国は経済成長率こそ高くないが人々はゆとりある豊かな生活をしている。彼らは楽しみながら働くというゆとりある人生観を持っており、一カ月半ものバカンスを楽しんでいる」



豊かな生活を約束

国際平和運動の一環にも

――ヨーロッパを豊かにさせたものは何か。

「四十年間の平和がもたらしたものだ。東欧圏をのぞいて各国間はビザ無しで旅行できる。たとえばスイスは小さな国だが、自動車で全欧のどこへでも行けるから、全ヨーロッパがスイスのようなものだ。また、他国の人も気楽にスイスアルプスで楽しむことができる。つまり一国は全ヨーロッパのために、全ヨーロッパは一国のために存在するという関係が確立している。一方、日本は大陸をへだてた島国であり、国の基本政策が地理的制約を強く受けている。コメの自由化問題もこの点を無視しては考えられない。非常時に海上封鎖されたらどうするかということで、資源、食糧品の自給を運命づけられている。

食糧、資源の安定供給可能

その結果、先日の国民生活白書では国は豊かであるといわれているが、地価は米国の二十五倍、食糧品は世界の数倍。そのうえ観光資源に乏しく、バカンスといっても国民は行くところがない。だから賃金は世界一、年金も世界一高いといわれても、国民の間にゆたかさの実感はあまりないのではないか。

もし日韓トンネルが実現して日本が大陸とひとつになったら、そこを通じて食糧、資源が安定供給される。また国民は車でアジア、ヨーロッパ、あるいはアフリカに自由に行くことができる。いままでのユーラシア大陸が日韓、英仏、ジブラルタルトンネルを通じてユーラシアフリカ大陸になり、日本にとり地球が何十、何万倍に拡大することになる」

亜細亜大学教授
藤田　至孝

今度、英仏間のドーバー海峡横断トンネル計画が現実化したし、ヨーロッパとアフリカを結ぶジブラルタル海峡トンネルも計画されている。

――日韓トンネルの開通は日本に何をもたらすか。

「日本国民を真の意味で豊かにさせるだろう。生産活動は日本で、観光・行楽はユーラシアフリカ大陸ということになり生活の豊かさを約束する。

また文化的にも大きな意味を持つ。日本は有史以来、海に囲まれてきて、それがわが国の政治、経済、文化を特徴づけてきた。日本の孤立主義、島国性、特有の勤勉心（これは良い意味だが）もこのことが一因となっているのである。その壁がとはずされ、大陸の一部になるわけだから、価値観、世界観に大きく影響する。アジアの出来事がすぐ日本に反映するし、外国人が自由に出入りするわけで日本は開放的になり、世界人への道が開けよう」

完成後の外交力が重要に

――開発資金についてどう思うか。

「現在の日本は大幅黒字で金あまり状態といえるし、こういう世紀的大事業には世界からの投資も期待できるのではないか。技術的にも日本は青函トンネルを完成させたし、日韓トンネルはその四倍の長さだが、岩盤の状態にもよるが、十分可能性がある」

――政治問題についてはどうか。

「技術、資金の問題が解決しても最後に残るのが政治問題だ。トンネルの実現には日韓両国政府の合意がなければならないし、韓国と北朝鮮の緊張状態が残っていたら、意味がない。あるいは中国、ソ連、ベトナム、インド、パキスタンなどの国境が自由に通過できないといけない。そこで全世界は一つであるという、平和運動の一環としての日韓トンネル計画だという点を政治家や国民が納得し合意するような運動を進めていくべきだ。

ヨーロッパにこういう例がある。第一次、第二次の世界大戦にスイスが中立を保てたのはなぜか。スイスは、ヨーロッパの中央部に位置し、ドイツ、フランス、イタリア、オーストリアに国境を接しており、無数のトンネルを通じてヨーロッパ交流の要衝となっている。両大戦時にこの国は他国の侵略があったらこのトンネルを全部爆破すると警告し続けた。その場合、ヨーロッパは完全に分断され資源も人間も往来不可能になる。これを恐れてどの国もスイスには兵を出さなかったといわれている。

同様に日韓トンネルを通じて資源、食糧が入ってくるので、仮に海上封鎖されても孤立する心配はなくなり、トンネルが開いている限り日本の資源、食糧の安全保障は確保できることになる。半面、トンネルが閉鎖されると困ったことになる。その意味で今後日韓両国の緊張状態は絶対避けなければならないし、平和が重要になってくる。

トンネル計画実現にも国際平和が必要、完成後もトンネルを開通し続けるという外交力が必要になってくる。